



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月8日

上場会社名 参天製薬株式会社

上場取引所 東大

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ プマネージャー (氏名) 日比 貴史

TEL 06-6321-7007

四半期報告書提出予定日 平成23年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	82,105	△4.9	22,107	△14.0	22,820	△11.6	14,677	△9.6
22年3月期第3四半期	86,300	10.9	25,709	123.6	25,812	109.1	16,239	110.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	172.43	172.24
22年3月期第3四半期	190.93	190.69

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	166,167	144,006	86.5	1,688.15
22年3月期	166,878	137,603	82.3	1,614.08

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 143,700百万円 22年3月期 137,342百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
23年3月期	—	40.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	108,500	△1.9	26,300	△11.3	27,000	△9.6	17,500	△6.5	205.72

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.6「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期3Q	87,033,003株	22年3月期	86,992,503株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	1,910,145株	22年3月期	1,902,026株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年3月期3Q	85,121,256株	22年3月期3Q	85,058,097株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は、本日付にて終了しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいてい
ます。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性がありま
す。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. その他の情報	6
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	6
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
4. 連結参考資料	12
(1) 主要製品売上高	12
(2) 医薬品開発状況	13
(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額	15

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第3四半期の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、薬価改定の影響はありましたが、網膜疾患治療剤および緑内障治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアを中心に堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、需要の減少に加えて、流通価格下落の影響があり、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、当第3四半期の業績は次のとおり減収減益となりましたが、これは前年同期においてライセンス契約に基づく一時金収入56億9千万円による売上・利益の増加等、一時的要因によるものであり、これらを除いた売上・利益は、順調に推移しました。

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期増減率
売上高	86,300	82,105	△4.9%
営業利益	25,709	22,107	△14.0%
経常利益	25,812	22,820	△11.6%
四半期純利益	16,239	14,677	△9.6%

ライセンス契約に基づく一時金収入を控除した比較は、以下の通りとなります。

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期増減率
売上高	80,610	81,715	1.4%
営業利益	20,019	21,716	8.5%

[売上高]

前年同期から4.9%減少し821億5百万円となりました。

主力の国内医療用医薬品事業においてマイナス5%台半ばの薬価改定の影響があったものの、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」等を中心に売上を拡大し、前年同期のライセンス契約に基づく一時金収入を除いたベースでは、1.4%増加しました。

[営業利益]

前年同期から14.0%減少し221億7百万円となりましたが、前年同期のライセンス契約に伴う一時金収入を除いたベースでは、売上同様に堅調に推移し8.5%増加となりました。

売上原価は261億9千万円、売上原価率は31.9%となりました。販売費及び一般管理費については338億7百万円、このうち研究開発費は97億5千4百万円となりました。

[経常利益]

前年同期から11.6%減少し、228億2千万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期から9.6%減少し、146億7千7百万円となりました。

② 当第3四半期におけるセグメント別業績の状況

当社は、医薬品事業とその他事業の二つの事業セグメントから構成されます。

売上高の多くは医薬品事業によっており、その比率は98.2%となります。

医薬品事業の売上高は、前年同期と比べ5.3%減少し806億3千3百万円となりましたが、前年同期に発生した海外におけるライセンス契約に伴う一時金収入を除いたベースでは、ほぼ横ばいとなりました。

一方、その他事業の売上高は、眼内レンズ「エタニティー」が順調に市場に浸透した結果、32.5%増加し14億7千2百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	68,659	0.3%	11,974	△28.5%	80,633	△5.3%
医療用医薬品	65,052	1.0%	11,967	△28.5%	77,019	△5.1%
うち眼科薬	56,824	1.3%	11,458	6.9%	68,282	2.2%
うち抗リウマチ薬	7,568	△1.8%	77	△20.3%	7,645	△2.1%
うちその他医薬品	659	7.9%	432	△92.7%	1,091	△83.3%
一般用医薬品	3,606	△10.6%	6	△58.5%	3,613	△10.8%
その他事業	1,074	55.7%	397	△5.4%	1,472	32.5%
医療機器	1,066	57.4%	397	△5.4%	1,463	33.3%
その他	8	△34.3%	—	—	8	△34.3%
合計	69,733	0.9%	12,372	△28.0%	82,105	△4.9%

(注) 各セグメントの売上高は外部顧客に対する売上高を表しています。

〔医薬品事業〕

当第3四半期の医薬品事業の売上高は、前年同期と比べ5.3%減少し806億3千3百万円となり、営業利益は、223億6千6百万円となりました。医療用医薬品の売上高は、5.1%減少し770億1千9百万円となりました。これは、前年同期には海外においてライセンス契約に伴う一時金収入が含まれていることによるもので、その影響を除いた場合の前年同期比は、売上・利益ともに増加しました。

(医療用医薬品)

<眼科薬>

〔国内〕

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施した結果、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ1.3%増加し568億2千4百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は、前年同期と比べ54.2%増加し50億4千6百万円となりました。

角膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める製品特性などにより、数量ベースでは順調な伸びを示しましたが、薬価改定の影響があり、売上高は、前年同期と比べ2.5%減少し144億8千7百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、「クラビット点眼液」、「タリビット点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べほぼ横ばいの103億4千9百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力しましたが、薬価改定の影響に加えて、スギ花粉の飛散が前年同期と比べ小規模であったことや競争の激化もあり、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ11.0%減少し16億9千9百万円となりました。

〔海外〕

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ6.9%増加し114億5千8百万円となりました。

欧州では、医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツ等において新製品の緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンE N錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられているものの、薬価改定の影響もあり、前年同期と比べ2.1%減少し76億4千5百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、ライセンス契約に伴う一時金収入・ロイヤルティ収入、受託製造等が含まれます。当第3四半期は前年同期と比べ83.3%減少し10億9千1百万円となりました。これは前述の通り、前年同期にはライセンス契約に伴う一時金収入が含まれていることによるものです。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬の中で「サンテメディカル10」、「サンテ40 i」および「サンテFX Vプラス」を中心に販売促進に注力しましたが、国内における需要の減少や競合の影響もあり、前年同期と比べ10.8%減少し36億1千3百万円となりました。

〔その他事業〕

当第3四半期のその他事業の売上高は、前年同期と比べ32.5%増加し14億7千2百万円となり、営業損失は、2億5千9百万円となりました。

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期と比べ33.3%増加し14億6千3百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、㈱クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、8百万円となりました。

③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で販売中です。欧州では平成20年6月のドイツに始まり、現在、18カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成22年3月に香港、次いで5月に韓国で発売しました。中国では第Ⅲ相試験が終了し、現在、承認申請中です。また、平成21年4月には、メルク社とのライセンス契約締結により、西欧（ドイツを除く）、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾しました。メルク社は平成21年9月以降、イギリス、スペイン、イタリアなど合計11カ国でタフルプロストを販売しており、米国でも開発を継続しています。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で32カ国となりました。

緑内障・高眼圧症を適応症とするDE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、日本での第Ⅰ相試験（PK試験*）が終了し、現在、第Ⅲ相試験を準備中です。欧州では、第Ⅲ相試験を開始しました。また、緑内障・高眼圧症を適応症とするアデノシンA_{2A}受容体作動薬DE-112（一般名：未定）の第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で開始しました。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月に日本で「ジクアス点眼液」として発売しました。なお、中国においては、第Ⅲ相試験を実施中です。ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101（一般名：リボグリタゾン）は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験結果を踏まえ、日本では後期第Ⅱ相試験、米国では高用量製剤を追加した第Ⅰ相／第Ⅱ相試験をそれぞれ実施中です。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。さらに、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110（一般名：未定）も、ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象とする第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102（一般名：未定）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。また、滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験）を日本で実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108（一般名：レボフロキサシン（1.5%））は、平成22年12月に製造販売承認を取得しました。

関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、日本と欧州で実施していた患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験（第Ⅰ相／第Ⅱ相試験）を終了し、日本で第Ⅱ相試験を開始しました。

* PK試験：薬物動態(Pharmacokinetics)試験。生体内に投与された薬物の体内動態を明らかにする試験。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ7億1千1百万円減少し、1,661億6千7百万円となりました。受取手形及び売掛金の増加、有価証券の増加などがありましたが、現金及び預金の減少などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ71億1千5百万円減少し、221億6千万円となりました。未払法人税等の支払い、賞与引当金の取崩しなどが要因です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ64億3百万円増加し、1,440億6百万円となりました。利益剰余金の増加などが要因です。

これらの結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ4.2ポイント増加し、86.5%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、94億5千1百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は225億6千4百万円であり、売上債権の増加が30億9千1百万円、法人税等の支払いが118億2千8百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、81億1千6百万円の支出となりました。定期預金の払戻による収入が23億2千9百万円となりましたが、定期預金の預入による支出が40億6千1百万円、投資有価証券の取得による支出が36億8千4百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、71億5千8百万円の支出となりました。配当金の支払いが67億2百万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ62億8千5百万円減少し、580億6千3百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の業績は概ね予定通り推移しており、平成22年5月11日に公表した連結業績予想は修正していません。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 会計処理基準に関する事項の変更

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しています。

これにより、営業利益および経常利益は9百万円、税金等調整前四半期純利益は117百万円それぞれ減少しています。

② 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	52,843	56,677
受取手形及び売掛金	38,184	35,268
有価証券	11,526	8,998
商品及び製品	10,636	11,210
仕掛品	315	425
原材料及び貯蔵品	2,343	1,987
繰延税金資産	1,190	2,166
その他	1,948	2,098
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	118,987	118,832
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	40,733	41,569
減価償却累計額及び減損損失累計額	△27,024	△26,946
建物及び構築物(純額)	13,709	14,622
機械装置及び運搬具	11,046	11,137
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,361	△9,142
機械装置及び運搬具(純額)	1,685	1,994
土地	8,212	8,418
リース資産	221	133
減価償却累計額及び減損損失累計額	△41	△35
リース資産(純額)	179	97
建設仮勘定	176	43
その他	10,799	10,862
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,603	△9,464
その他(純額)	1,195	1,397
有形固定資産合計	25,159	26,574
無形固定資産		
ソフトウェア	938	1,158
その他	58	72
無形固定資産合計	996	1,231
投資その他の資産		
投資有価証券	12,942	12,239
繰延税金資産	6,571	6,702
その他	1,509	1,299
投資その他の資産合計	21,023	20,240
固定資産合計	47,179	48,046
資産合計	166,167	166,878

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,046	5,600
短期借入金	—	543
未払金	7,613	7,936
未払法人税等	1,044	6,618
賞与引当金	1,504	2,687
その他	2,809	1,901
流動負債合計	18,018	25,286
固定負債		
退職給付引当金	3,151	2,910
役員退職慰労引当金	450	456
資産除去債務	159	—
その他	380	621
固定負債合計	4,142	3,988
負債合計	22,160	29,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,591	6,538
資本剰余金	7,286	7,233
利益剰余金	140,922	133,053
自己株式	△4,982	△4,958
株主資本合計	149,817	141,866
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△400	136
為替換算調整勘定	△5,716	△4,660
評価・換算差額等合計	△6,117	△4,524
新株予約権	306	260
純資産合計	144,006	137,603
負債純資産合計	166,167	166,878

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	86,300	82,105
売上原価	26,661	26,190
売上総利益	59,639	55,915
販売費及び一般管理費	33,929	33,807
営業利益	25,709	22,107
営業外収益		
受取利息	32	33
受取配当金	370	443
その他	374	364
営業外収益合計	777	841
営業外費用		
支払利息	37	30
為替差損	507	71
持分法による投資損失	106	—
その他	22	26
営業外費用合計	674	127
経常利益	25,812	22,820
特別利益		
固定資産処分益	—	5
投資有価証券売却益	74	—
会員権売却益	—	7
特別利益合計	74	12
特別損失		
固定資産処分損	14	7
減損損失	284	—
投資有価証券売却損	197	—
投資有価証券評価損	—	150
会員権売却損	—	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	108
持分法による投資損失	457	—
特別損失合計	954	268
税金等調整前四半期純利益	24,932	22,564
法人税、住民税及び事業税	9,056	6,380
法人税等調整額	△364	1,506
法人税等合計	8,692	7,886
少数株主損益調整前四半期純利益	—	14,677
四半期純利益	16,239	14,677

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	24,932	22,564
減価償却費	2,566	2,231
減損損失	284	—
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	463	240
受取利息及び受取配当金	△403	△476
支払利息	37	30
持分法による投資損益 (△は益)	564	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,414	△3,091
たな卸資産の増減額 (△は増加)	390	95
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,338	△571
その他	921	△172
小計	27,004	20,850
利息及び配当金の受取額	401	462
利息の支払額	△25	△32
法人税等の支払額	△8,219	△11,828
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,160	9,451
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,594	△4,061
定期預金の払戻による収入	1,857	2,329
有価証券の取得による支出	△3,599	△1,501
固定資産の取得による支出	△905	△1,386
固定資産の売却による収入	—	185
投資有価証券の取得による支出	△1,005	△3,684
投資有価証券の売却による収入	309	3
貸付けによる支出	△49	—
貸付金の回収による収入	49	—
その他	2	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,936	△8,116
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	277	263
短期借入金の返済による支出	—	△789
長期借入金の返済による支出	△110	—
配当金の支払額	△6,680	△6,702
その他	121	69
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,392	△7,158
現金及び現金同等物に係る換算差額	△277	△462
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7,553	△6,285
現金及び現金同等物の期首残高	45,956	64,348
現金及び現金同等物の四半期末残高	53,510	58,063

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

参天製薬グループの報告セグメントは、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている構成単位から、参天製薬グループが主な事業内容としている医薬品の製造・販売を中心とする「医薬品事業」に係るものを集約したものです。

「医薬品事業」では、医療用および一般用医薬品の製造・販売を行っています。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	80,633	1,472	82,105	—	82,105
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	93	93	△93	—
計	80,633	1,565	82,199	△93	82,105
セグメント利益又は損失 (△)	22,366	△259	22,107	—	22,107

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日) および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上高

(単位 百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成22年3月期		平成23年3月期	
		第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
クラビット点眼液	合成抗菌点眼剤	9,670	12,240	10,239	12,698
レボフロキサシン点眼液		(△2.1)	(△1.6)	(5.9)	(3.7)
タリビッド点眼液	合成抗菌点眼剤	1,929	2,423	1,918	2,353
オフロキサシン点眼液		(△7.2)	(△2.6)	(△0.6)	(△2.9)
タブロス点眼液	緑内障治療剤	3,272	4,687	5,080	7,556
タフルプロスト点眼液		(329.7)	(342.8)	(55.2)	(61.2)
コソプト配合点眼液	緑内障治療剤	—	—	1,941	2,141
ドルプラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液		—	—	—	—
チモプトール点眼液	緑内障治療剤	2,274	2,832	1,726	1,680
チモロールマレイン酸塩点眼液		(△10.0)	(△11.9)	(△24.1)	(△40.7)
チモプトールXE点眼液	緑内障治療剤	2,740	3,475	2,306	3,026
チモロールマレイン酸塩持続性点眼液		(1.5)	(△0.0)	(△15.9)	(△12.9)
デタントール点眼液	緑内障治療剤	1,705	2,168	1,625	2,125
ブナゾシン塩酸塩点眼液		(△4.9)	(△5.1)	(△4.7)	(△2.0)
レスキュラ点眼液	緑内障治療剤	2,986	3,669	2,200	2,842
インプロピル ウノプロストン点眼液		(△14.5)	(△16.3)	(△26.3)	(△22.5)
リボスチン点眼液	抗アレルギー 点眼剤	1,909	3,229	1,699	2,886
レボカバスチン塩酸塩点眼液		(△9.0)	(△24.9)	(△11.0)	(△10.6)
ヒアレイン点眼液	角膜疾患治療剤	16,640	21,219	16,451	20,536
ヒアルロン酸ナトリウム点眼液		(6.9)	(5.9)	(△1.1)	(△3.2)
フルメロン点眼液	抗炎症点眼剤	3,377	4,432	3,278	4,280
フルオロメロン点眼液		(1.7)	(△5.1)	(△2.9)	(△3.4)
カリーユニ点眼液	初期老人性	2,903	3,728	2,971	3,784
ピレノキシン点眼液	白内障治療剤	(4.1)	(4.4)	(2.3)	(1.5)
オペガンハイ眼粘弾剤	眼科手術補助剤	2,701	3,431	2,510	3,207
ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤		(8.1)	(6.0)	(△7.1)	(△6.5)
リマチル錠	抗リウマチ剤	3,466	4,352	3,087	3,970
ブシラミン錠		(△2.3)	(△4.1)	(△10.9)	(△8.8)
アザルフィジンEN錠	抗リウマチ剤	3,336	4,216	3,196	4,083
サラゾスルファピリジン腸溶錠		(2.1)	(0.7)	(△4.2)	(△3.2)
一般用医薬品		4,050	5,251	3,613	5,364
		(0.7)	(0.5)	(△10.8)	(2.2)

下段: 対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売		
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同	日本						2008年12月		
				欧州							2008年6月	
				米国	(導出)							
				ラテンアメリカ	(導出)							2010年8月
				アジア								2010年3月

プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社に許諾。アジアでは香港、韓国にて発売中。中国ではフェーズ3が終了し、現在承認申請中。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ジクアホルソナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア社	日本						2010年12月
				アジア						

角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月、日本にて発売。中国にてフェーズ3実施中。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD社	日本						

視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。国内ではMSD社により片頭痛治療剤として販売中。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	第一三共	米国	(フェーズ1/2)					
				日本						

主にドライアイに伴う角結膜上皮障害に対する改善効果を期待。現在発売および開発中の薬剤と異なる作用機序を有し、角結膜上皮細胞に直接働きかける点眼薬。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	オークウッド社と共同	日本	(フェーズ1/2)					

ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れたステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与により長く安定した薬効持続性を確認。商業用スケールでの製造技術開発で米国オークウッド社と提携。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	自社	米国						
				日本						

既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞伸展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	第一三共	日本						2010年12月

ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シロリムス	DE-109	滲出型加齢黄斑変性 糖尿病黄斑浮腫	自社	日本	(フェーズ1/2)					

免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する結膜下注射および硝子体内注射剤。2010年6月に全世界での開発・製造・販売権を取得。

一般名	製品名/コード 番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-110	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	自社	米国						

選択的グルココルチコイド受容体作動薬(SEGRA)。ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象として、米国でフェーズ2実施中。

■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	製品名/コード番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	自社	日本	準備中					
			共同開発	欧州						

プロスタグランジン関連剤およびβ遮断剤の配合剤。

一般名	製品名/コード番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-112	緑内障・高眼圧症	自社	米国	(フェーズ1/2a)					

高い選択性を持つアデノシンA_{2A}受容体作動薬。プロスタグランジン系とは異なり、主経路(線維柱帯)からの房水流出を促進する新規作用機序の緑内障・高眼圧治療剤。

一般名	製品名/コード番号	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO抗体)	関節リウマチ	セントコア社	日本	(フェーズ2)					
				欧州	(フェーズ1/2)					

RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注剤。セントコア社から抗APO-1抗体の国内外での開発販売権を導入。

■2010年度第2四半期発表時(2010年11月2日)からの変更点

コード番号	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-085	緑内障・高眼圧症	発売	欧州	発売国追加
		承認申請	中国	P3終了承認申請

コード番号	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-089	ドライアイ	発売	日本	発売

コード番号	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-108	外眼部感染症	承認	日本	承認取得

コード番号	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-111	緑内障・高眼圧症	フェーズ3準備中	日本	フェーズ1終了 フェーズ3準備中
		フェーズ3	欧州	フェーズ3開始

コード番号	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-112	緑内障・高眼圧症	フェーズ1/2a	米国	フェーズ1/2a開始

コード番号	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-098 (抗APO抗体)	関節リウマチ	フェーズ2	日本	フェーズ2開始
		フェーズ1/2終了	欧州	フェーズ1/2終了

(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位 百万円)

	平成22年3月期		平成23年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
設 備 投 資 額	689	1,228	912	2,790

■減価償却費

(単位 百万円)

	平成22年3月期		平成23年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
総 額	2,395	3,202	2,084	3,060
製 造 経 費	1,238	1,701	1,107	1,600
販 売 管 理 費	445	556	409	640
研 究 開 発 費	712	945	567	820

(注) 長期前払費用および営業権の償却費は除いています。

■リース料

(単位 百万円)

	平成22年3月期		平成23年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
総 額	427	527	142	190
製 造 経 費	358	437	93	160

■研究開発費

(単位 百万円)

	平成22年3月期		平成23年3月期	
	第3四半期 累計実績	通期実績	第3四半期 累計実績	通期見込
研 究 開 発 費	10,572	14,123	9,754	14,100
対 売 上 高 比	12.3%	12.8%	11.9%	13.0%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。